

「上郡町地域公共交通計画（案）について」パブリック・コメントの結果

■意見等の募集期間：令和3年1月20日～令和3年2月18日

■意見等の受付件数：2人4件

（提出方法の内訳：持参2人、郵便 人、ファクシミリ 人、電子メール 人）

1. 意見等の概要と町の考え方

【意見1】

P56「利用者1人あたりの公共交通への公的資金投入額」

上郡町の財政状況は非常に悪い中で、公共交通事業への公的資金投入額を現状から増額するという目標数値を定めることに疑問を感じる。

【町の考え方】

転出者アンケートや住民満足度調査結果等において、現在の公共交通の状況に不満を感じている人があり、現状の公共交通では更に人口が流出し、人口流出による行財政の減少と悪循環を招くことも懸念されます。

今後、安定的な財源を確保するためにも、現在、お住まいの方が快適に永く住んでいただくとともに、町外からの転入者が暮らしやすい生活環境を確保するための交通環境改善が必要であると考えています。

公共交通は、人々の移動を支えることで医療、商業、教育など、他の多くの行政分野と関連しています。このため、地域公共交通の充実は、通院や通学、買い物などの移動を行政分野別に支えるのではなく、まとめて移動を支えることができるので、結果的に効率的な行政施策になります。

なお、公共交通事業の実施にあたっては、公共交通の見直しや連携、既存施設の活用など、既存資源の有効活用とともに、国の補助金等の活用など、できるだけ効果的・効率的な事業投資に努めたいと考えています。

【意見2】

P61「主要交通結節点（主核）の整備」

主核とする JR 上郡駅前に待合空間の整備は理解できるものの、これだけの施設整備には相当の財源投入が必要と考えるが、財政的な見通しは問題ないのか。

【町の考え方】

JR 上郡駅は、町民の利用が多い交通拠点であるとともに、上郡町の玄関口となっており、鉄道からバスやタクシー、送迎自動車などの乗り継ぎも多くなっています。

このため、JR 上郡駅前の待合空間の整備は重要だと考えていますが、できるだけ既存施設を活用するとともに国の補助金等も活用しながら、待合空間を確保していきたいと考えています。

【意見3】

P63 「ラストワンマイル交通としての次世代モビリティの導入」

超小型モビリティの導入検討として活用イメージの記述があるが、バス停等までの近距離移動の手段として現実的なものとは思えない。また、この超小型モビリティは個人の移動手段として従来の自動車からの乗り換えを促進するものか、町が取得して配置するものか。もし個人の取得を促すのであれば、取得費用における支援策が必要である。

【町の考え方】

上郡町は、他市町と比較しても自動車の利用割合が高く、広い町域全てを公共交通でカバーするのは難しいと考えています。このため、移動目的や時間帯に応じて自動車を利用していただくことも必要だと考えています。

一方で、本町は県内でも高齢化率が高いことから、高齢者でも比較的安全に利用できる次世代モビリティも交通手段の選択肢の1つとして検討していきたいと考えています。

次世代モビリティの導入については、今後、地域の方々と話し合いながら、地域単位での導入や個人での取得など、地域の実情に応じた導入方法を検討していきたいと考えています。

費用負担については、現時点では未定となっており、今後、地域の方々と議論を重ねて、導入方法について検討していきたいと考えています。

【意見4】

P28 (10) 地域の輸送資源 ①スクールバス

スクールバスの活用（混乗）は、財政的な負担軽減に有効であるとともに、高齢者と子どもがふれあえる、とても良い機会と考えるが、どのように検討されているのか。

【町の考え方】

スクールバスは児童・生徒を安全に輸送することを目的としており、不特定多数の大人が混乗することで、安全性が低減することに懸念を示す児童生徒（又は保護者）もいます。

混乗化だけでなく、スクールバスの運行時間前である通勤・通学時間帯や、利用していない昼間時間帯の車両の活用なども含めて、検討していきたいと考えています。

■お問い合わせ先： 企画政策課

TEL：0791-52-1112

FAX：0791-52-5172

電子メール：kikaku@town.kamigori.lg.jp